

ユネスコ・生命倫理コア・カリキュラム、2011
『人間の尊厳と人権についてのケースブック』1

ケーススタディー1-14：未成年者の代わりに救命治療を拒否すること

翻訳 石本博子

DJは6歳である。彼は、もしも適切な治療を受けなければ必ず死に至るであろう、極めて悪性度の高い腫瘍であると診断された。現時点では、有効な治療方法を行うと、回復の望みがあるのだが、これらの治療方法は、血液製剤の使用を必要とする。

DJの両親は、これらの事実を知らされた。エホバの証人であるにも関わらず、彼らは自分たちの息子の病気の重症度を知り、治療に同意した。

3ヶ月後、両親は、病気を治療するためにはさらなる一連の化学療法治療が必要であると聞いた。

数日後、未成年である息子の状態が悪化した。彼は大学病院に入院し、そこで、他にも輸血が必要であることが決定した。このとき、両親は病気の重症度のことは承知しているという旨の意思を述べた。しかしながら、未成年者である息子の治療がさらなる輸血を必要とするならば、彼らは治療に同意することはできなかった。彼らの宗教的信念に基づき、またさらに健康上の理由で、彼らは輸血による危険性を警戒した。

その結果、彼らは未成年である息子が、鎮痛剤のみで治療されることを要求した。有効な代替治療がない場合、輸血を含むさらなる化学療法による治療を拒否し続けることで、両親はDJの回復のひとつの望みを拒絶していた。このように、彼らは、息子の健康と命をひどく脅かしていた。

DJは、宗教的信念に基づく両親の意に反して、輸血による治療をされるべきか。

ここに、すべてではないが複数の考えられ得る解決法がある。これを他の解決案と共に議論しなさい。倫理的な論点を明確にして、あなたに最も当てはまる解決策をその理由とともに定めなさい。

NO 両親は、自分たちの子供のための一連の治療を決定する権利がある。

YES 両親は、自分たちの子供のための一連の治療を決定する権利があるが、彼らは子供か

ら、唯一の生きる機会を奪うことはできない。従って、本ケースでは、子供に輸血を含む救命治療が行われるべきである。

本ケースについてのノート

判決

本事例はその国の憲法裁判所で審議された。裁判所は一審判決（first instance decision）を支持した。この判決は、未成年である子供の両親がさらなる化学療法治療を拒否した事実を考慮して、彼らは回復の唯一の望みを子供から奪い、それ故に彼の健康や命を脅かしたと判断を下した。大学病院の小児腫瘍学の外来医長によると、子どもに回復の望みを与える代替療法は当時も今もなく、彼の両親はこの事実気付いている。裁判所の意見によると、治療に対する態度を堅持する両親は、子供の健康だけでなく、命をも脅かすことになる。それ故に、彼らは親としての義務、特に彼らの子供たちの健康のために適切なケアを提供するという義務に違反した。

個人生活や家庭生活を尊重する権利は無制限のものではない。公権力がこの権利の行使を次の場合には妨げてもよいからだ。つまり、そのような妨害が法に適っており、また（諸権利の中で）他人の健康や権利そして自由を保護するという利益のために民主主義社会において必要である場合に限って、公権力の介入が許される。

ディスカッション 未成年者の代わりに救命治療を拒否すること

未成年者は、他の人間と同じように、尊重されるべき尊厳のための権利を持っている。尊厳はまた、文化的多様性の側面を含む。社会の人々が、彼らの信念が原因で規範を守ることができない場合、私たちは彼らを尊重し、また医療に同意もしくは同意を差し控え介入を避ける彼らの権利を尊重すべきである。

未成年者は一般的に医療に同意する権限がないと考えられている。従って、彼らの両親が彼らの代わりにそのような同意をする。彼らの子供たちの医療ケアについて意思決定する場合、両親は子供たちの幸福や、治療が子供にもたらすことができる最大限の利益を考慮しなければならない。

両親が彼らの子供たちのために意思決定をする状況において、問題のほとんどは、彼らが彼らの子供の最善の利益と相反するように思われる選択をする場合に生じる。

治療の目的を決定づけるときに使われる基準に関する議論がある。今日、「最善の利益」基準は最も受け入れやすい。しかしながら、特に、親としての決定が、核となる信念や信仰、他の諸考慮を含むようなケースで、価値観を担った選択になる場合、子供の最善の利益とは何かを決定することは難しいであろう。原則的に、これらの熟慮は『生命倫理と人権に関する世界宣言』の第12条に述べられているように、尊重されるべきである：

文化の多様性と多元主義の重要性には然るべき配慮がなされるべきである。しかしながら、そういった配慮は、人間の尊厳と人権、基本的自由、並びに本宣言に定める原則を侵害したり適用範囲を制限したりするために発動されてはならない。

しかしながら、親の信念がとても極端である、またはあまりに強く固持されているために実質的な害をもたらすかもしれない例外的な事例がある。このような事例の場合、両親の考え方が子供に損害を与えているかどうかを判定することが重要である²。

親の自律を覆すために満たすべき様々な条件がある。

- a. 医療専門職は個別の事例において、適切な治療の定義について合意していること。
- b. 期待される治療の帰結が、ある程度良質で比較的普通の生活であること。
- c. 治療しなければ子供が死亡してしまうこと。

親の意見に反対を示す決定は、第一に子供のニーズや福祉に重きを置く、倫理委員会や同様の組織によって検討されるであろう。